

林業とくしま



第9回緑の少年団全国大会「記念植

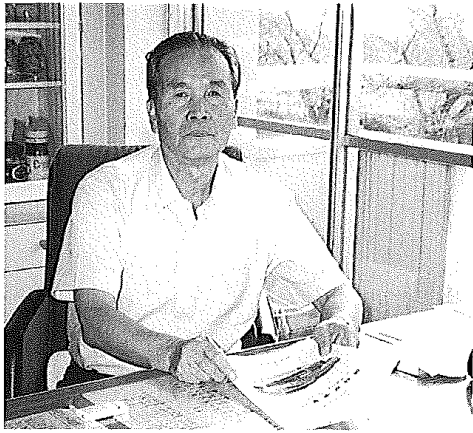
全国から参加した団員たち全員により
交流集会会場「まぜのおか」の一角に
ヤマモモ、カシ、タブノキ、モチノキ等の
広葉樹550本が植樹されました。



「育てよう
山の緑と心の緑」

(平成10年徳島県緑化標語優秀作品)
城東高等学校1年
村山 貴美恵さんの作品

No. **246**
1998.10



合併後も 松枯れ跡地の整備を

美馬郡北部森林組合長

中野 侑紀

阿讃山脈のほぼ中央に脇町の大滝山と美馬町の竜王山が並び立っている。この両町の森林組合は、よく似た自然環境の中で、同じような事業運営をしていた。流域合併の話になってから、自然の引力に引かれるように似たもの同志相寄り、県の強い指導と相まって昨年の十月一日に合併し、美馬郡北部森林組合が誕生した次第である。この間、県町ほか関係各位に多数のご尽力を頂いたことは言うまでもない。(合併はしたがこれからは正念場だと思う。)

元々、両町は松の産地であり、対岸穴吹町小島の松に並ぶ良質材が生産されていた。主として、松と雑木の山並みでもあった。雑木といえども薪炭用に重要な役割を果たしていた時代もあったのである。特に、木炭は戦中から戦後にかけてトラック等の自動車の燃料として大量に消費されていた。山の至る所に炭を焼く煙が立ち昇っていた光景を思い起こすとき今昔の感入である。

薪炭用に伐採した跡地は農家の採草地として大いに利用された。この採草地へ赤松の種子が飛来発

芽して、数年で植林した如く自然生の松林ができる。農家は採草と松の保育を兼ねて行うことになる。こうして十数年後には見事な松林となり、採草もできなくなる。次の山を求めていく。

この松林が松喰い虫に一溜まりもなく無惨にも全滅してしまった。木造建築の梁、桁等の骨格材として欠くことのできないものであっただけに惜しまれてならないが、その上、建築様式も変わり今ではあまり使用されなくなった。日本の古くからの建築文化が失われつつあることは仕方ないと思いつつも残念である。

しかし、このことよりも問題は松枯れ跡地の対策である。この山々を放置することはできないし、個人で整備できる環境でない今日、社会全体のこととして考えてほしいと願うものである。これが私たち新しい組合の最大の悩みであり課題でもある。

公社・公団造林の継続を強く要望し、県などの行政にもご援助いただきたい。そして松枯れ跡地の山々を早く整備できるよう願う次第である。

も く じ (林業とくしま 246号)

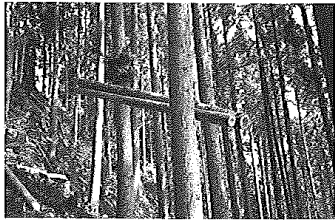
やまびこ(合併後も松枯れ跡地の整備を).....	2
鉄人コーナー(単線循環式架線の索張り鉄人).....	3
(きのこ採取の鉄人)	
林政の窓(森林法の一部改正とその取り組みについて).....	4
特集(第9回緑の少年団全国大会徳島県で開催).....	6
森林とともに(山の日常・自然と共に!!).....	8
(好きです!!押し花アート).....	9

技術情報(菌床培地の混合条件).....	10
阿波だぬき(剪字峠の大蛇).....	12
東西南北.....	13
お知らせ.....	14

単線循環式架線の 索張り鉄人

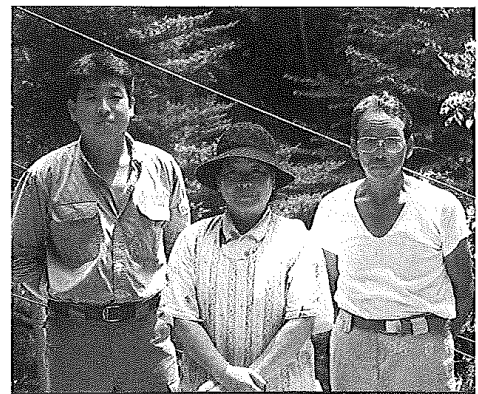
穴吹町
中山修一氏

中山さんが単線循環式架線による集材を始めたのは昭和五十三年からで、それまではエンドレスタイラー式架線、自走式搬器による集材作業を行っていた。以前から太い本線を張ることなく簡単に架設ができ、且つ効率的の良い集材はできないものかと試行錯誤を繰り返して、単線循環式に辿り着いたが、有効な滑車が考案できずにいた。



しかし、さくら滑車の登場により、本格的に単線循環式架線に取り組むこととなった。当時は人夫さんを雇用していたが、現在は妻の豊賀さん、長男の定明さんの三人で和氣あいあいと素材生産に取り組んでいる。

また、中山さんの技術が認められ、単線循環式架線の架設の講師を美馬郡内はもちろん、



県西部、香川県においても勤めた経験をもっている。索張りの第一人者として、その普及にも大きく貢献しており、見習うべき点が多々ある。

当初は、年間八〇〇㎡素材生産に取り組み、現在でも周りの人からの仕事が入り、忙しい毎日を送っている。

循環索用ワイヤーロープは九㎜、荷吊り用ロープは六㎜と八㎜を使用し、末口径五十八㎝、材長七mのマトも搬出した業を持つ。単線循環式架線のメリットは強度なアンカーが不要で、小寄せ作業で済み、効率的な搬出ができる点であると熱弁する。

最後に地域の素材生産の指導者として、将来の林業を担う人材の育成に尽力してもらいたいと切望する。

きのこ採取の鉄人

池田町
久保進氏

久保さんは、三好農林高校を卒業後、全国酪農協同組合に就職し、全国を転々としていましたが、50歳になったのを区切りに池田町に帰郷し、長年の夢であったカフエレスト「太陽がいつぱい」という店を開いています。

久保さんが、きのこに興味を持つようになったのは、高校在学中に椎茸栽培を目にしてからで、以来、本を片手に山を歩き、生育条件等の勉強をするようになり、いまでは、毎年9月の下旬から11月の上旬にかけて、毎週木曜日に近くの山に出かけ30種類程の食用きのこを採取してくるそうです。この間の金曜日にお店に行く日替わり定食の吸い物の中に「まつたけ」が入っているというラッキーなことがあるかも知れません。

きのこを採りに行ってうれしいことは、自分が見たことのないきのこを見つけた時だそうです。特



にナギナタタケの群生を見つけたときは、感動したそうです。そしてここから鉄人たる由縁ですが、食べられるかどうかかわからないきのこを発見したときの鉄人流の食べ方を紹介します。①とにかく煮る。②家族が4人居るので一人は食べない。③残りの3人が量を調整して食べる。④大丈夫なら料理方法を研究する。以上

将来の夢を聞いてみると、野生のきのこの中には、おいしいきのこがいつぱいあるのでいくつかのきのこを培養して、近くの利用されていないトンネルを活用して、新しいきのこ栽培に取り組み、地域振興に貢献したいということでした。

森林法の一部改正とその取り組みについて

一 森林法とは

皆様、「森林法」という法律をご存じでしょうか。「法律」というと何か堅苦しい内容を連想されるかも知れませんが、案外身近に感じられるものです。

例えば、森林所有者の方の中では、立木を伐採したり、林地を開発したり、あるいは森林施業計画を樹てている方にはなじみの法律でしょう。

また、森林基本図(1/5000)や森林簿、空中写真等をご覧になった方もおられると思いますが、これらの成果品についてもこの法律に基づいて作成するようになっていきます。

二 森林計画制度とは

ここで、森林法の中に体系付けられている森林計画制度について簡単に説明しましょう。

森林は再生可能な資源といわれ

ますが、一度荒廃してしまうとその機能の復旧には多大な労力と期間を要するものです。

また、経営の面からみると、林業経営は長期を要しますが、伐採の時期は明確ではないため、ややもすれば経済事情等により無秩序な伐採が行われやすいことから、計画的かつ長期的視点に立った適切な経営や施業が必要となつてきます。

こうしたことから、森林を保全し、健全な森林を育成・整備していくことを国民的な政策課題として位置付け、国、県、市町村および森林所有者レベルを通じた森林計画制度が森林法において体系付けられています。(表-1)

三 法改正の背景

現在(日十・八月時点)国会に森林法の改正案が提出されていますが、もしこの改正案が承認されます

と、これから述べる項目については平成11年4月からの施行となります。この改正案の背景と概要について説明しますと

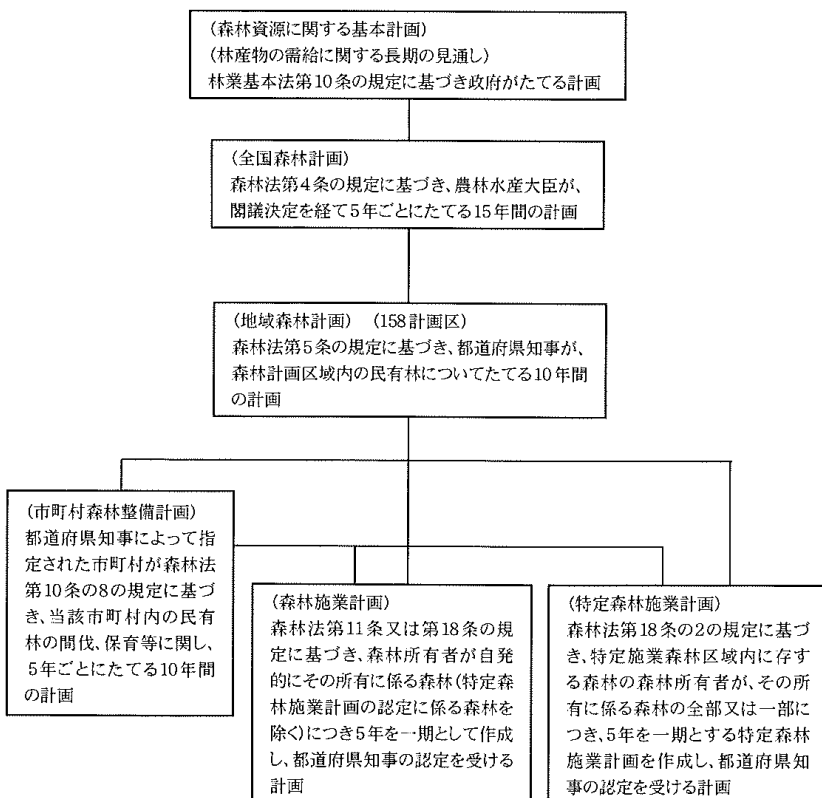
①人工林の多くが主伐適期を迎えようとしている中で間伐が十分に実施されていないこと。

このため、森林施業にかかる市町村の役割を強化し、きめ細かな施業を促進するとともに、森林施業計画

の認定要件の中に間伐実施の項目を追加することとしています。

②公益的機能の発揮に対する国民の要請が高まっていること。
これに対しては、長伐期施業や複層林施業を誘導するための特定森林施業計画に共同方式を導入するとともに、人工林だけでなく天然林も計画の対象とすることとしています。

(表-1) 現行の森林計画制度(民有林)の体系



四 法改正の内容

現在、国、県レベルにおいては事業の見直しと地方分権という大きな流れがありますが、今回の改正案の中でも大きな柱となっているのが、森林施業にかかるとする市町村の役割強化と権限委譲です。

①市町村森林整備計画の充実

この計画は、造林から伐採までの総合的な計画になる予定ですが、市町村レベルでよりきめ細かな森林施業を展開するための指針となるもので、民有林のある市町村は全て樹立することとなっています。ですから、県下では四十七の市町村が樹立するようにありますが、この計画は、平成11年3月まで作成する必要があります。

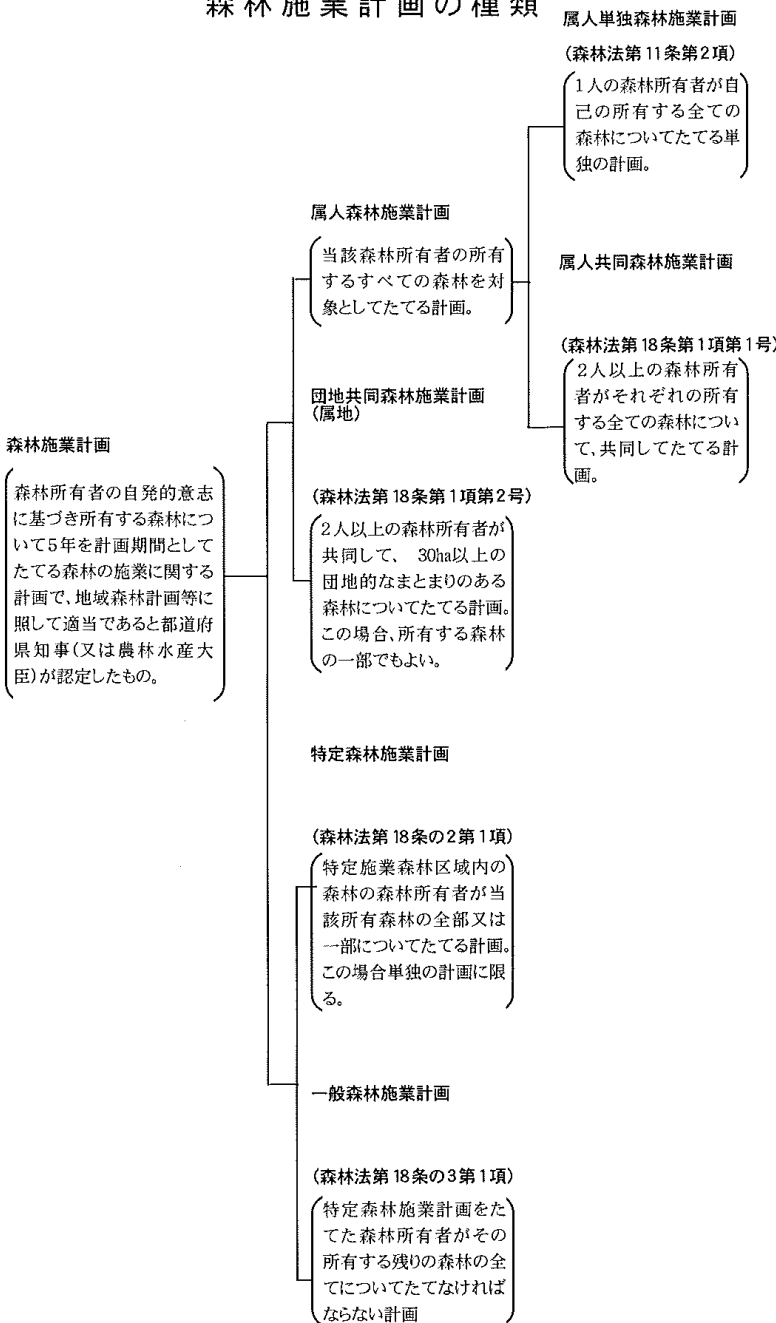
②森林施業計画の認定

現在の森林施業計画の種類は、表1-2のとおりですが、改正案では特定森林施業計画で若干の拡充が予定されています。

また、認定については、認定権者が現行の県知事から市町村長に移行します。

ですから、団地森林施業計画は当然市町村認定になりますし、属

(表-2) 森林施業計画の種類



人の施業計画についてもかなりのパーセントのものが市町村認定になると予想されますので、市町村の担当の方にとつては、かなり大きな法改正となると思われます。

③法第十条の伐採届の市町村長の受理等

これについては、市町村が森林施

業の指導・監督について、より主導的な役割を果たしていくことを期待しているものです。

五 県の取り組み

今回の法改正案は、施業計画の認定や伐採届の受理といった市町村の役割や権限が強化、拡大されることから、従来とは異なる大幅な改正といえます。

ただ、この改正案は国会を通過していないため、県としては具体的な

対策を打ち出すのは難しいのですが、平成11年4月以降市町村への事務事業の移行がスムーズに行えるよう、施業計画認定用ソフトの開発やパンフレット作成などの準備は進めております。

いづれにしても、今後より詳しい情報が入りましたら各農林事務所を通じて周知を図りたいと考えていますので、よろしく願います。

林業振興課 森林計画係

第9回緑の少年団 全国大会徳島県で開催

〔記念式典〕

平成10年7月22日から24日の3日間、「夢にのせ ぼくらが育てるこの緑」を大会テーマに、第9回緑の少年団全国大会が、本県で開催されました。

全国から47組の緑の少年団、県内からは44組の緑の少年隊のほか招待者、大会関係者など約1500名が参加し、盛大に開催されました。



記念式典は、7月22日、徳島市の「アステイとくしま」において行われ、城ノ内高校吹奏楽部の演奏に合わせて、各緑の少年団の代表がプラカードと団旗を持って入場した後、木沢杉の子緑の少年隊の木下和久君と青木実樹さんにより開会が告げられました。そして、主催者である須藤徹男全国緑の少年団連盟会長と圓藤寿徳徳島県知事からあいさつがあり、続いて、表彰が行われました。

大会テーマの部では、この大会のテーマを考えた神山町下分小学校6年生森貴史君に、圓藤知事から賞状と記念品が送られました。また、活動が優秀な緑の少年団に贈られる「みどりの奨励賞」では、宮城県の石巻市真野みどりの少年団、広島県の深川みどりの少年団、徳島県脇町の大谷緑の少年隊がそれぞれ表彰されました。

緑の少年団活動発表は、緑の少年団を代表して、大谷緑の少年隊の長岡愛実さんと橋本真奈さんが日頃の活動について発表しました。大谷緑の少年隊は、毎年春と秋に森林観察を行ったり、野鳥観察や巣箱作りをしています。自分たちでつくった巣箱にどのような野鳥が産卵し、育っているかなどを観察し、「野鳥の集い」において、観察結果を発表したりしています。また、自分たちで実際に、菊やしいたけの栽培も行っています。

この後、山本 徹林野庁長官及び木内信恭徳島県議会副議長から緑の少年団への励ましの言葉があり、緑の少年団を代表して、海南町川上緑の少年隊の谷田閣也君と福岡裕子さんが、「みんなで力を合わせて緑を守り育てよう。」と誓いの言葉を述べました。

その後、来年の開催県である和歌山県の緑の少年団と県林務長から時期開催の案内があった後、鳴門市坂東緑の少年隊の桑原好人君と五島裕希子さんが、大型映像により徳島県の紹介を行いました。さらに、アトラクションとして、北島町の東高房の獅子舞と阿波踊りが披露されました。



東高房の獅子舞は、獅子舞と鬼退治の劇が一緒になっ
ており、子どもが主役を演じるおもしろい劇
となりました。
また、阿波踊りは、水玉連と阿波連の皆さんが踊りを披露してくれました。この大会が子どもを中心とした大会であることから、各連とも多くの子どもたちが参加してくれ、参加者全員が阿波踊りの渦に飲み込まれたといった感じで大変好評でした。

〔交流集会〕

記念式典の後、交流集会参加者は、「アステイとくしま」からバスで交流集会会場である海南町の「県立海南野外交流の郷」（まぜのおか）へ向かいました。

まぜのおかは、今年7月にオ-

特集

ブンしたばかりのオートキャンプ場であり、このまぜのおかを中心として、2泊3日の交流集會が行われました。

開村式では、緑の少年隊徳島県連盟を代表して高柳農林水産部次長が、「この3日間、共同生活や野外活動をおして交流を深め、多くの友だちをつくってください。」とあいさつし、続いて、地元海南町の五軒家町長が歓迎のあいさつを行いました。

参加者は、それぞれ20班に別かれ、テントで宿泊する組と国民宿舎に宿泊する組に分かれて、それぞれ最初の一夜を過ごしました。



翌日は、野外活動として、ウォークラリー、草木染め、うちわづくり、記念植樹などを行いました。

ウォークラリーは、10人程のグループに分かれて、海老ヶ池周辺

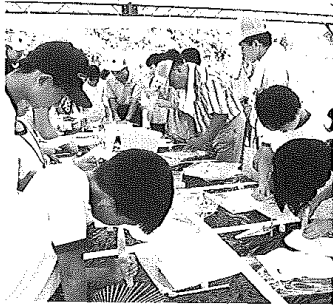
約4kmを問題を解きながら歩きまわした。海老ヶ池周辺は、静かな池と山の緑とが美しく、夏の暑い日でしたが、みんな元気よくコースを歩いていました。



草木染めでは、タマネギの皮とユーカリの葉を染料にし、媒染液は鉄とミョウ

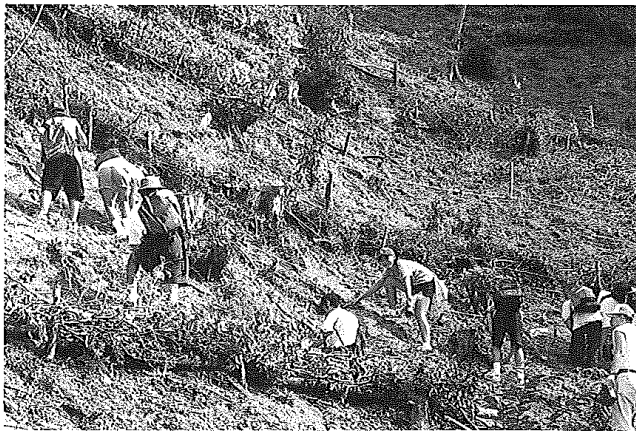
ウバンを使いました。染料と媒染との組み合わせで4種類の色ができ、子どもたちは、それぞれ思い通りに自分だけの模様を作って、ハンカチを染めていました。大変興味を持ったのか、みんな何回も挑戦していました。

また、うちわ作りでは、竹のうちの骨に紙を貼り、自分で好きな絵を



描いていくもので、みんな熱心に取り組んでいました。

さらに、参加者全員が記念植樹を行い、記念の森をつくりました。植栽した樹種は、県南によくあるダブノキ、アラカシ、スタジイなど11種類であり、将来は、シイを主体とした常緑広葉樹林になるはずで



23日の夜は、全員がまぜのおかに集まり、ふれあい交流会を開きました。地元海南町の海南太鼓の勇壮な演奏が披露された後、やさか連の皆さんの阿波踊りの披露の

後、全員でキャンプファイヤーを囲んで阿波踊りを踊りました。全国から来た参加者は、少年団員も引率の大人もみんな楽しそうに踊っていました。



2日目の夜は泊まる所を交代し、翌日の朝、閉村式を行い、交流集會を終了しました。

大会期間中は、天候に恵まれ、参加した子どもたちは、生涯この大会の思い出を忘れることはないと思います。

第9回緑の少年団全国大会
実行委員会事務局

林業振興課 徳永 章

山の日常

自然と共に

上那賀町 日野 尊子さん

今回は上那賀町の古屋川を望む日野さん宅にお邪魔し、お話を伺いました。皆さんもご存じのように日野家は木頭林業地帯の代表的林家として有名ですが、現在、人工林約200〜250ha、シキミが2ha、ユズ0.6haで林業を中心とした農業との複合経営を実施されています。尊子さんが山関係の仕事をするようになったのは、二人のお子さんの子育てが一段落してからだそうです。



1 主な仕事は・・・

尊子さんの年間スケジュールは、春と秋の彼岸前とお盆前にはシキミの出荷、冬はユズの出荷で忙しい、その合間を縫って山林の下刈りと除間伐、シキミ・ユズの剪定などをしています。もちろん主婦業もりっぱに果たされており、話を聞いていると休む間がありません。「口がうもうて(ご主人に)おだてられてやるんです(笑)」とのこと、ご夫婦の仲の良さが感じられました。

2 山の仕事について・・・

学生の頃都会で生活した経験があるとのことですが、山の中では人間関係の煩わしさがなく、なにより自然の中で体を動かすことが好きだとおっしゃいます。困ることはないですか? という質問に

は、「ハミ(毒蛇)とハチが嫌やけど、ハミは見つけたら(危ないから)とる。」らしいです。生け捕りにされたハミのその後は・・・皆さんのご想像の通りです。

3 シキミ栽培について・・・

『いいモノを作る』を基本として、昭和50年くらいから植林栽培されています。岡山や神戸の市場では名前が売れるようになったとのこと、『商品は言うなれば自分の作品だし、生き甲斐にもなっている。』とさわやかにおっしゃいました。



た。(ただしご主人には『おまえはいいトコだけ持っていく』と言われるそうですが。)

林業経営については、木材価格の低迷やシカによる食害など問題は多く、これからの森林施業の方向を模索する時期なのでは。と、冷静な考えもお持ちです。

現在は狩猟をなさるご主人と「気兼ねのない悠々とした(本人談)二人暮らしですが、息子さんが林業経営に興味があり、材木市場で修行中だそうで、山林経営に憂慮するところがありながらも、将来が楽しみだと語って下さいました。

阿南農林事務所 小林理香



好きです!! 押し花アート

上勝町 平石 ツヤ子さん

上勝町で野山の草花を素材にした押し花製品をつくっている「彩女会」。今回はその活動拠点である「彩工房」で管理人をされている平石ツヤ子さんを訪ねました。



平石さんは、旧上勝郵便局を借りて命名した「彩工房」に一日滞在し、しおりやハガキ、額などの押し花製品をつくるかたわら、上勝町に訪れる視察者や観光客の対応に、忙しい毎日を過ごされているそうです。

押し花での作品づくりを始めたきっかけをお聞きすると「活動を始めたのは平成二年の七月からです。役場の人が旅行先できれいな押し

花額用の花パックを買ってきてくれて、やってみませんか。それがきっかけです。それから興味をもった人が集まって、さっそく押し花講師として杉野先生をお呼びして講習を受けました。」とのこと。なお、杉野先生とはあの押し花電報を考案された方で、彩女会では会員十人がインストラクターの認定を受けているそうです。もちろん平石さんもインストラクターの一人で、講師に呼ばれることも多く「いつも忙しいんですよ。講習会に行くときは材料をそろえたりしなければいけないでしょ。それに、花をとってきたら花を押し乾燥しないといけないし。もちろん彩工房での仕事もあるので、家のことが充分できないんです。」と語る平石さんですが、その目は笑っており、とても楽しそうです。

また、工房にいると、時には「押し花ハガキ百枚今日中につくって」とか「祖谷のかずら橋の額をつくって欲しい」とか急ぎや個別の注文があったりしてその大半を平石さんが対応しているとのこと。

押し花の作品展で何度も入賞した実績を持つ平石さんの作品はさすがに素晴らしい。特に風景画が得意だそうで「最近県展で額が準優勝したんです。それで、その作品は手元に置くつもりだったんですけど、滋賀県の人がこので見るとどうしてもゆずってくれて。結局手放してしまっただけです」というエピソードも。それだけに作品を仕上げるのもずいぶん時間がかかるのかと思えば大作も二、三時間ぐらいで仕上げてしまう腕前だとか。

取材中に突如、愛媛大学の学生らが三十人程訪れ、差し出された教授の名刺にさっと押し花をプリントして、実演をしながら彩女会や押し花の説明をする様子は慣れたもの。また、実演の後、特に女性がハガキや押し花の本などを買い求め、それに対応する平石さんは多忙そのもので毎日の姿をかい間見

ることができました。



「みんなとの出会いがあつて楽しく暮らせるのがいい。みんなに喜んでもらったらそれでいいんです。」

そんなやさしい気持ちで、押し花の作品にも現れているのではないかと、そんな思いがしました。

「ここでは、冗談ばかりいって過ごしているんです。この間『センスがないから』といったお客さんに『私はウチワでやっていますわ。』って言うたら『その言葉、気に入った。』って。(笑)主人も冗談が好きで二人で毎日楽しく過ごしています。」と言う平石さん。

これからも彩工房でその明るい笑顔をたやさず頑張ってください。

徳島農林事務所 紙屋和宏

菌床培地の混合条件

林業総合技術センター
緑化・特産科長
阿部 正範

はじめに

菌床シイタケ栽培の培地の作成手順は、まずはじめに、オガ屑にコメヌカ・フスマなどの栄養材を加えて混合し、培地組成の均一化を図る空練りという作業を行います。次に、均一化した培地に水を加えて再度混合します。その後、袋やビンなどの培養容器に培地を詰めて殺菌を行います。

これらの中で、水を加えて混合する作業では、混合時間は培地全体が均一な含水率となる時間が必要とされています。そのため、混合時間を長くすれば、含水率はより均等になります。しかし、混合時間を長くすると培地の栄養分が発酵して阻害物が生成したり、pHが低下して、きのこの菌糸成長を遅

らせる原因になると言われています。

そこで、最適な混合時間を求めるために混合時間別の培地の含水率とpH、培地内の微生物数の変化、及びシイタケの発生量について調査を行いました。

《試験方法》

● 培地の組成と含水率

20メッシュユ及び3メッシュユの広葉樹オガ屑、コメヌカ、フスマを容積比で4・4・1・1とし、また、殺菌前で62%の含水率となるように水を培地に加えしました。

● 培地の混合条件

ミキサーは、エスキュー工機(株)のEX150-5型を用いました。ドラムに培地材料を投入した後、空練りを30分間行い、その後水を加えてそれぞれ15分・2時間・4時間の混合を行いました。

● 培地pHの測定

混合した培地5gに水を25g加えて10分間攪拌後、1時間静置して、pHメーターで測定しました。

● 含水率の測定

培地約10gを104℃で48時間乾燥して、絶乾重量を測り、含水率

を求めました。

● 微生物数の測定

生理食塩水10mlに培地1gを懸濁し、その懸濁液を希釈後、平板培地に塗布して25℃で5日間培養しました。培養後に出現した微生物数を数え、培地1gあたりの微生物数を決定しました。なお、細菌の培養は細菌用普通寒天培地、糸状菌はPDA培地を用いました。

● シイタケの発生量

混合時間別の培地を殺菌後、北研600号を接種して培養を行いシイタケを発生させました。発生操作は、初回は浸水を行わず、2回目以降から浸水により発生処理を行いました。浸水回数は3回で、合計4回の発生操作を行いました。なお、各試験は、2回繰り返して実施しました。

《結果と考察》

● 培地pHの変化

結果は、図1のようにになりました。空練り区が最も高くなり、混合時間が長くなるに従いpHが低下して、4時間の混合で最も低くなりました。しかし4時間の混合でもpHは、約6.0でシイタケ菌糸

の生長に影響はないと思われました。

● 培地含水率の変化

結果は、図2のようにになりました。空練り区で、1回目の試験が10.4%、2回目24.2%となりましたが、それ以外の試験区では、混合時間の長短に関わらずほぼ62%となりました。このことから、今回使用

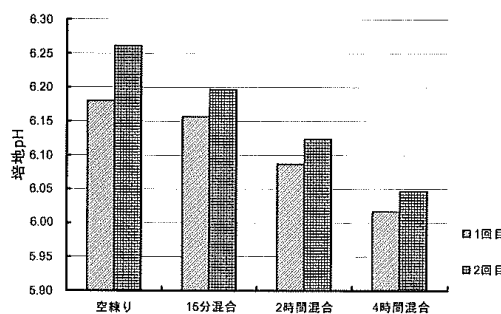


図1 混合時間と培地pHの変化

したミキサーは、15分の混合で培地全体が均一な含水率になることがわかりました。

● 微生物数の変化

1回目、2回目の試験とも、糸状菌数・細菌数は、15分混合区が最も多くなり、混合時間が長くなるほど減少して、4時間混合区が最も

少なくなりました。図-3・4は2回目の試験の結果をそれぞれグラフにしたものです。

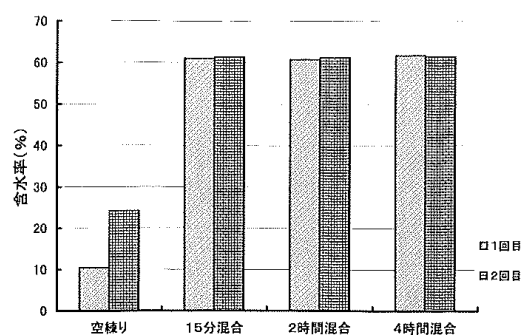


図-2 混合時間と培地含水率の変化

試験前の予想では、混合時間が長くなるほど微生物数が増加すると予想していましたが、逆に微

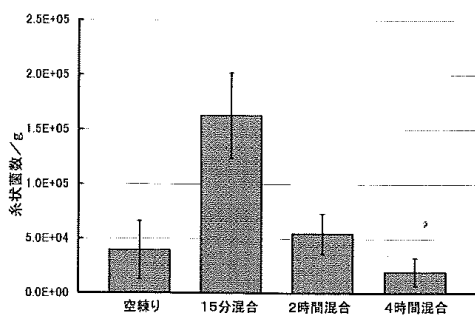


図-3 混合時間と糸状菌数 (2回目)

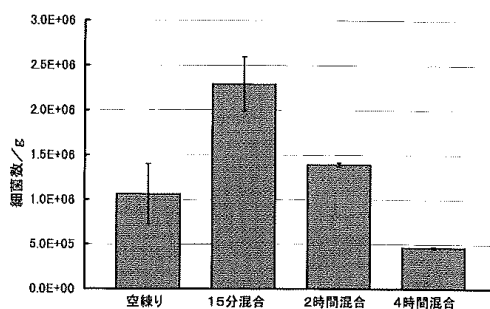


図-4 混合時間と細菌数の変化 (2回目)

生物数は減少しました。これは、混合によるドラム内の摩擦熱によって微生物が死滅したことが推察されますが、詳細は検討中です。

シイタケの発生量

図-5は、2回目の試験の結果で、培地1kg当たりの発生量を示しています。4回の発生操作で最も発生量の多かったのは、15分混合区で、次いで2時間混合区、4時間混合区の順になりました。1回目の試験の結果も同じように傾向となりました。1試験区の供試数が少なくて、断定はできませんが、混合時間が長くなるほど発生量が少なくなる傾向が見られました。

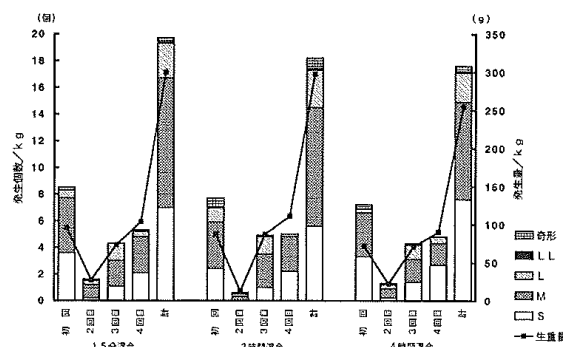


図-5 混合時間別の個実体発生量 (2回目)

おわりに

今回の試験で、培地は長時間混合するほど微生物数が減少することがわかりました。しかし、シイタケの発生量は、混合時間の短い方が多くなりました。培地内の微生物数が少ないほど、シイタケの発生量は増えると思われていました。結果は逆となりました。この原因については、おそらく殺菌後の培地のpHが影響しているのではないかと思われます。殺菌前の培地のpHは、4時間の混合でもシイタケ菌糸の生長に影響を及ぼすと思われる値ではありませんでし

た。しかし、殺菌後は、培地のpHが殺菌前に比べて低下することが報告されています。今回は、殺菌後の培地のpHを測定していませんが、殺菌後は、pHが想像以上に低下したのかもしれない。それが、シイタケの発生量に影響を及ぼしたと推察されます。再度試験を行い殺菌後の培地のpHを測定してみたいと思います。

培地の混合については、まだまだ不明な点がありますが、今回の試験では、きのこの発生量は混合時間が短いほど良い結果となりました。しかし、短すぎると含水率が偏る恐れがありますので、ミキサーの特性を十分把握した上での最短混合時間を決定する必要があると思います。

また、今回は、比較的気温の低い冬期に試験を実施しました。しかし、この傾向が、年間を通しての傾向なのか不明なため今後、気温の高い夏期に同様な試験を実施する予定です。

剪宇峠の大蛇

徳島県林業研究グループ連絡協議会

会長 谷 奥 歳 信

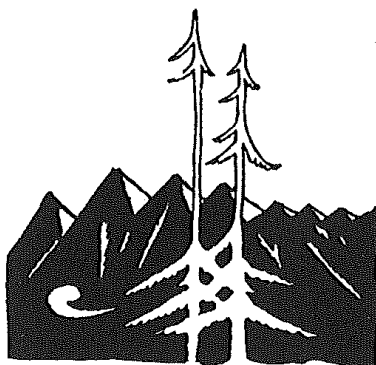


「わあー!」でたぞー!」おおきいぞ!!」

美馬郡穴吹町北又剪宇峠の一角で、四人の山男達が廻り一メートル、長さ十メートルの大蛇を発見したのは、今から、二十五年前の昭和四十八年五月でした。そのニュースはまたたく間に、日本中はおろかソ連やブラジル等、世界中のニュースで報道されました。

世界の三大怪獣、ネス湖のネッシー、ヒマラヤの雪男、剪宇峠の大蛇ということで、この大蛇を生け捕りにするかせて、証拠の写真でもと、数回にわたる、マスコミ関係者や、地元猟友会で編成された大がかりなものから、四、五人といった大小多数の、探検隊が剪宇峠の山中へロマンを求めて、分け入りました。

「ロマン」という言葉が大きな流



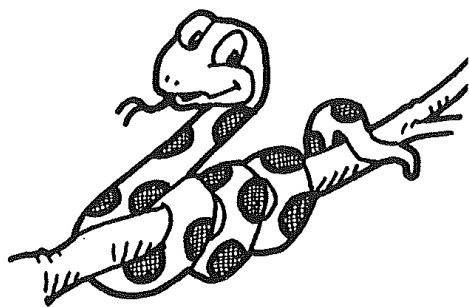
行語にもなりました。残念ながら大蛇を、再発見する事は出来なかつたわけですが、あの大蛇探検にかけた、「ロマン」は日本中を活気付かせたように思います。

当時、林業家は将来の豊かな生活を見て植林と保育に生き甲斐を感じて、汗を流しました。

私も、その年の秋に、妻子を伴って穴吹町へヒタインシ林業に取り組んできました。現在三世代夫婦を含む九人の大家族。来年

の二月には念願の二けた十人になりそうです。

最近、社会全体が気持ちのゆとりを失い、様々な悪い現象が起きるようになっていきます。来年あたり、一まわりも二まわりも大きく成長した、元気な剪宇峠の大蛇に再会し、不況を、吹き飛ばし緑豊かで、幸福な社会が近づく事を願う今日この頃です。





池田
徳島学生森林フォーラム
IN 大学の森

平成七年一月十七日、阪神淡路大震災で被災した学生に三好郡町村会、地元林業関係者の有志らで杉の間伐材を利用したミニハウス（仮設学生寮）を提供したのをきっかけに、都市間交流の拠点として「大学の森」構想が実現、また、森林体験を通し今回のフォーラム開催を皮切りとして歩みはじめました。フォーラムは徳島大学の生徒が主体となり林業体験とパネルディスカッションを行い、参加した農山村地域住民と意見交換を重ね、森林林業の尊さを再認識することが出来ました。なかでも、パネルディスカッションでは「地球の未来と森林」をテーマに個々の議題解

決の鍵を握ることを目的に取り組み、生徒自身がパネラーとして発表しました。
パネラーの報告内容（全14報告）「発展途上国と森林破壊」「森はよみがえる」「緑化の歴史と恵み」...

池田農林事務所 細川芳宏



脇町
グラススキー
全国大会で
特産品販売

本格的な夏の訪れとともに、木屋平村中尾山高原でグラススキーの全国大会が開催され、全国各地から多くの選手や関係者が集まりました。

そこで、やまぶき会、農産物加工組合では中尾山高原にある特産品売場の湖畔茶屋等でとれたての野菜やしいたけ、手作りみそや梅加工品を販売しました。

あいにくの荒天にもかかわらず、夏休み最初の土日でもあり一般客も含め多くの人たちでにぎわい、これら野菜、加工品百点以上が売れ、予想以上の売れ行きに販売する方も満足げでした。

今回の特産品販売を企画した木屋平村産業経済課課長補佐の松家さんは、「木屋平のおいしい特産物を全国の人に知っていただく絶好のチャンスでした。これからも村の特産品のPRに努めていきます。」と張り切っています。

脇町農林事務所 助定竜太郎



徳島
映画上映会開催される！
都市住民への
情報発信への試み！！

去る七月九日徳島市の文化の森で、広く一般県民へ森林林業への理解を深めてもらう目的で、吉野川流域林業活性化センター主催による「映画・草刈り十字軍」の上映会がありました。映画は、一九七〇年代までの住民運動の流れを変えたと評される有名な富山県の「草刈り十字軍運動」を描いたものです。映画は、屋夜二回上映され、約百名の来場者がありました。都市部と比べ、農山村は高齢化と過疎化が深刻で、基幹産業である林業も長引く低迷が続いています。こうした状況を打開するには、都市住民への情報発信が何より重要です。この映画上映会にみられるこうした試みが、林業活性化に向けての新たな流れを生み出すことに繋がればと思います。

徳島農林事務所 松村俊憲



島 間伐材の 川 林道工事等への利用

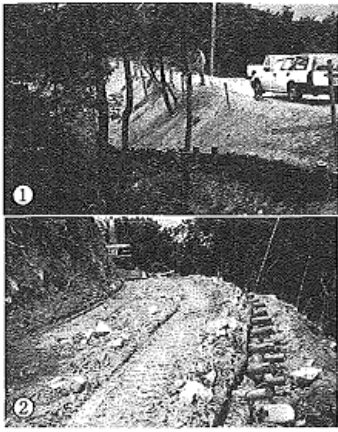
市場町の林構林道伊笠山線では、間伐材の利用拡大のため開設に際し延べ延長170mの木柵を設置した。この箇所は、盛土区間の法尻に木柵を施し、地元の材を使い周辺の景観とマッチするとともに経済性にも配慮した状況となっています。

(写真①)

このほかにも、同町内では森林開発公団造林地においても簡易作業道の路面下に間伐材の丸太を使い路体の安定を図っています。(写真②)

当管内では、さらに今年度事業においても木材の可能な限りの利用を呼びかけているところです。

川島農林事務所 濱田浩二



◆◆イベントのお知らせ◆◆ ☆木材利用促進月間

これまで、行われていた木材関係イベントも、今年から新たに月間化!! 各種盛りだくさんの内容は、左のとおりとなっています。

● オープニングセレモニー

とき 十月一日(休)午前十時

ところ 徳島県庁玄関前

◇開会アピール、月間行事紹介、W O O D キャラバン隊出発式

● 移動森林教室

とき 十月二日(金)

ところ 上八万幼稚園・宮幼稚園

◇森林や木材の紙芝居等

● 「ゆとりある住生活フェア」

とき 十月十七(土)・十八日(日)

ところ ヨンデンプラザ徳島

◇十七日(土)午後一時〜「木造住宅の木質資材と施工合理化技術研修会」開催等

● 山と木と緑のフェア98

第11回徳島WOODわくわく祭

テーマ やすらぎと文化的な空間づくり

とき 十月二十四(土)・二十五日(日)

午前十時

ところ 徳島市藍場浜公園

◇木工工作コンクール表彰式、ウルトラクイズ年輪、大抽選会等